シェイクスピアのGood Quartoについての覚書
——タイトルページを中心に——

山　田　直　道

シェイクスピア劇の本文校訂は古刊本時代を含めれば作者生前から行われているが，作品によって復雑さの濃淡はあるにせよシェイクスピアを論じる場合に避けて通れない問題である。例えば，本文編纂上難問の一つとなっている『ハムレット』の古刊本は，1603年出版の四折り（Quarto）版（Q_1）を皮切りに，その翌年から翌々年にかけて出版のQ_2（出版年のみ違うだけで体裁，本文は同じ），1611年出版のQ_3，1623年出版の二つ折り（Folio）版（F_1），そして1611年以降の出版で年代不明のQ_4，及び1637年出版のQ_5の合計6種類が見つかっている。クォートー版の体裁はtitle-pageから始まり，head-title付き本文第一ページ，running-titleおよび卜書き付き本文と続き，FINIS.をもって終わるのが一般的で，signatureはあるもののcolophonやActors Namesはなく，二，四，五幕と二幕一場の幕場割りのある*Othello*を除いてAct-divisionsもScene-divisionsも行われていない。『ハムレット』のクォートー版の体裁もこれに準ずるが，タイトルページの記載事項や本文行数など細かいところで異なる。一方，本文を再構成する基礎資料としてクォートー版と「双子」である第一フォリオ(1)の『ハムレット』の体裁は，ヘッドタイトル付き本文第一ページにランニングタイトルと登退場中心の卜書きが入った本文が続き，幕割りは二幕まで，場割りも二幕二場（同一場の表示はない）までで，以降はともに行われていない。シグネチャーは勿論あるが，大半の作品同様場面の指定と登場人物表はない。F_1全体の巻末には奥付が付いているが，『ハムレット』についてはFINIS.とdeviceで終わっている。こちらも後程触れるが一様ではない。

体裁だけでもこれほど異なる当時の刊行物は，出版組合に登録して出版の許可を受けることになっており，その登録簿の記載事項はその刊行物の性格を伝える最初の公的資料であるが，印刷された刊行物でそれと同じ役割りを果たすのがシグネチャーのないタイトルページである。タイトルページは一般的に出版者の宣伝文句を多く伝え

ているとされ[2]，クォートー版の場合には実際にその部分だけ剝がされ，ビラとして配布されたり，貼り出されたこともあったらしい[3]。本文の冒頭に掲げられたヘッドタイトル及びランニングタイトルのほうが作者のものとも考えられている[4]。舞台にのった芝居が印刷されて世に出るまでには，劇団，舞台監督，役者，印刷者，出版者などが介在し，彼等は様々な内的，外的要請を受けて動いたが，タイトルページの記載事項も，一つにはどのような謳い文句が売れ筋か出版者が頭を悩ませた結果であろう。しかしヘッドタイトルのほうが作者に近いからという理由でタイトルページを軽んじるわけにはいかない。我々の手許に届いた資料はそれほど多くはないのだから。

そこで，体裁，内容ともに本文と密接に関連しながらそれほど重くみられることのないタイトルページの比較に入る前に，本文校訂問題の背景を一瞥してみたい。今世紀のシェイクスピアの古刊本に関わる書誌学的研究は，当時の印刷工程や出版過程を明らかにしつつ，作者生前の1590年代から死後の1630年代にかけて同時代の人々が編纂し出版した版本（付随的な諸版をも含む）の相互関係を整理し系譜を調査しながら作者直筆の原稿（foul papers 又は fair copy）に近いであろうテキストを編纂する作業を行ってきた。しかし，18世紀初頭，詩人で劇作家の Rowe が初めてシェイクスピアの全集を読者向けに編纂して以来，Pope と Theobald，Steevens と Malone，Collier と Dyce，Furnivall と Halliwell-Phillipps とがそれぞれ本文編纂方針で対立しながら[5]テキストを編んだが，その成果は1863年出版の W. G. Clark，J. Glover，W. A. Wright によるケンブリッジ版シェイクスピア全集（全九巻）と，それを一冊にまとめたグローブ・シェイクスピア版（Clark，Wright 編纂，1864年出版）に結実した。しかしそれらのテキスト編纂方法には，主観によって本文を改変したり，先行する刊本をそのまま底本にしたり，折衷主義であったり，古い刊本を系統的に校合しなかったりといった点が多く見られ，今世紀に入ってからの A. W. Pollard，E. K. Chambers，R. B. Mckerrow，W. W. Greg らの本文校訂のアプローチとは大きく異なるものであった。シェイクスピアの書誌学的研究の分野では，今世紀の書誌学，特に 'a happy band of brothers'（*Henry* V, 4. 3. 60）とも称される[6]ポラード，グレッグ，マケローに代表され，同時期の付随的な草稿との比較に力を入れ推測に歯止めをかける書誌学[7]を，従来のテキスト編纂方法と区別して New Bibliography と呼び慣わしている。

Baconian Theory が唱えられ authorship の信ぴょう性を疑問視する disintegrator が輩出した[8]上にこうした本文校訂上の問題が生ずるのも，人気を博する新進の劇作家兼俳優のシェイクスピアを羨んだ先輩作家 Robert Greene (1558-1592) や，古典に

通じシェイクスピアを 'small Latine, and lesse Greeke' と揶揄した詩を F_1 の巻頭に寄せた Ben Jonson (1572-1637), 娘婿で腕の良さが評判だったケンブリッジ出の開業医 John Hall[9] (1575-1635) などとは違い, シェイクスピアの場合は自筆原稿はもとよりパンフレット類も含め個人的な記録が一つも見つかっていないからだが (遺言状と法律文書に見える六つの署名と, それを手掛かりに研究された *Sir Thomas More* の加筆 3 ページの D と言われる筆跡のみが彼の直筆であろうと推定されているにすぎない[10]) 彼の劇は上で述べたようにクォートー版の体裁で作者生前 (最も早くて 1594 年) から刊行されていた (グレッグの表に従って計算すると, F_1 以前に出た全クォートー版のおよそ 83% が生前の出版[11])。シェイクスピアは多くの場合, 既存の戯曲, 物語, 編年史などを所属劇団の上演用に脚色したが, 実際に出版されたクォートー版は作者本人の校訂を経てはいない。しかし自筆原稿がないため, 八折り版 (オクテイヴォー) を含め三様の体裁で出版された古刊本の精査校合が, 上で述べた本文の異同を吟味し批評する研究 (textual criticism), および作者の原稿に近いと推定される本文編纂の研究 (editing) の主体を成している。韻文や散文の台詞を必要に応じ注意深く登場人物間に配した芝居が, かなりの数の多様な観客[12] を三方かつ立体的に収めた多角形の舞台[13] にのるまでには, 興行収益に頼る商業劇団のもつ組織力の結集が必要なことは少なからず明らかにされてきたが[14], それと同時かあるいは上演後に, 恐らくは自筆原稿やその清書, 又は舞台監督用台本を元にして, もしくは記憶や速記術などによる復元を通して, 16 の異なる作品について 18 編の初版と 26 編の初版に拠らないリプリントの合計 44 編のクォートー版が出版された[15] とされている。

発見されたシェイクスピアの古刊本は, 現在, British Library や Folger Shakespeare Library などの主な図書館, Cambridge や Oxford そして Yale などの大学図書館に収められており, それらに準拠した photo-lithography の facsimile 版や collotype facsimile 版の出版も 19 世紀後半以降行われ, 古刊本研究の進展に寄与した。フォルジャー・シェイクスピア図書館に現存数のおよそ 1/3 にあたる 79 部が所蔵されている F_1 は, 劇団の同僚俳優であった John Heminge と Henry Condell が,「盗み出され, 悪い詐欺師の秘密の不正によって醜く歪められた様々な内密の版本」[16] を 'True Originall Copies' によって正し, シェイクスピアの死後 7 年を経過した 1623 年に全集として出版したもので, Comedies の『あらし』,『ヴェローナの二紳士』,『尺には尺を』,『間違いの喜劇』,『お気に召すまま』,『じゃじゃ馬馴らし』,『終わりよければすべてよし』,『十二夜』,『冬物語』や Histories の『ジョン王』,『ヘンリー八世』, そして Tragedies の『コリオレイナス』,『アセンズのタイモン』,『ジュリアス・シー

ザー』,『マクベス』,『アントニーとクレオパトラ』,『シンベリン』など，F_1 で初めて活字になった作品 17 編を含む 36 作品を収めている。およそ縦 13.5 インチ，横 17.5 インチの印刷用紙を二つ折りにした大きさで，体裁は，扉が読者に宛てたジョンソンの短い詩，Droeshout によるポートレートを掲げたタイトルページ，ヘミングとコンデルによる献辞，同じく両者による読者宛の一文と続き，ジョンソンや H. Holland, L. Digges, I. M. による詩の後に，ヘッドタイトルと劇団所属の 26 名の主な俳優の名前がシェイクスピアを筆頭に掲げられ，所収の喜劇，歴史劇，悲劇の A CATALOGVE が付いている。本文は『あらし』から『シンベリン』までの 36 編で，上記の目次にない『トロイラスとクレシダ』が Tragedies の最初に収められている。前にも述べたように最後に奥付がついている。幕場割りは，全く行われていないのが『ヘンリー六世第二部』,『トロイラスとクレシダ』,『ロミオとジュリエット』など全部で 6 作品。幕割りだけなのが『ヴェニスの商人』,『夏の夜の夢』,『ヘンリー五世』,『コリオレイナス』など合計 11 作品。場割りだけの作品はなく，残りの 19 作品が幕場割りの行われている作品であるが，その中の『ハムレット』は以前に述べたとおり 2 幕までしか幕割りがなく，『尺には尺を』,『ヘンリー六世第一部』そして『ハムレット』の 3 作品は場割りが中途で終わっている。そのほか，場面指定が『あらし』と『尺には尺を』の 2 作品のみにあり，登場人物表は『あらし』,『冬物語』,『オセロー』など 7 作品の FINIS. の後に付いているが，そのうち『ヘンリー四世第二部』と『アセンズのタイモン』は特設ページである。末尾にディヴァイスのある作品が 25，ないのが 11 作品である。タイトルページは，MR. VVILLIAM|SHAKESPEARES|COMEDIES,|HISTORIES, &|TRAGEDIES.|Publiſhed according to the True Original Copies.| [copperplate portrait, 188×157 mm, signed 'Martin・Droeshout: ſculpsit・London・', plate-mark 195×164 mm] |LONDON [swash N, D, N] |Printed by Iſaac Iaggard, and Ed. Blount. 1623. となっている[17]。クォートー版の大きさは上で述べた印刷用紙を四折りにしたもので，タイトルページには通常，タイトル，上演劇団名，作者名，ディヴァイス，印刷者名，出版者名・所在地，発行年が印刷されるが，劇によって筋書紹介や本文紹介，上演場所や上演時期などが加わったり，逆に削除があるなど様々である。フォリオ版は 1623 年の初版のあと，3 回改訂され第四フォリオ (1685 年) まで出版されたが[18]，目次に『トロイラスとクレシダ』が入り (F_2),『ペリクリーズ』など 7 作品が追加され (F_3 第二刷より)，本文までの順序や書式・書体に僅かな変更はあるものの，それぞれ直前の版をもとに印刷されたとされる。一方四折り版は作品によって改版事情が異なり，その数は，ポラードより後のグレッグによれ

ば，F_3 までの全 37 編のうち 20 編についてクォートー版が一つないしそれ以上発見されており，そのうち 14 編についていわゆる良いクォートー (good quarto) が，8 作品についていわゆる悪いクォートー (bad quarto) が出版されたとされている[19]。上で述べたヘミングとコンデルの言う「醜く歪められた版本」とは記憶や速記で再構成された悪いクォートーを指すのであり，作者の原稿をもとに印刷されたと考えられる良いクォートーとは分けて考えるべきであるとするポラードの研究以来，良いクォートーと悪いクォートーの二種類がクォートー版にはあることが定説となった[20]。F_1 印刷に際してクォートー版が参照されたことは既に究明されているが[21]，最近では，F_1 は良いクォートー同様失われた原稿から派生しているとするこれまでの single text theory とは別に，良いクォートーはシェイクスピアの未清書原稿などから印刷された原本で，F_1 は上演用に改訂された版だろうとするいわゆる two-text hypothesis も主張され[22]，それに準拠したテキスト編纂も行われるようになってきた[23]。

このように，シェイクスピアの書誌学的研究が直筆原稿に近いと考えられる最終テキストの獲得（懐疑派がいないわけではない[24]）を目指してきた経緯を背景とともに一瞥したが，最近 F_1 との関係からとみに注目を集めているクォートー版[25] から良いクォートー全 14 編を選び，その初版[26] のタイトルページを F_1 のタイトルページとともに比較しながら，本文編纂に対して三作品の良いクォートーが持つ意義を考えてみたい。

『タイタス・アンドロニカス』から『オセローー』に至るシェイクスピアの良いクォートーの初版を縦に年代順に並べ，タイトルページの記述を横の 14 項目に分類して整理すると次のようになる：(○印：記載有り。…印：記載無し。)

	デコレーション	タイトル	筋書紹介	本文紹介	上演頻度	上演場所
Titus	…	○	…	…	……	……
R. II	…	○	…	…	……	publikely
R. III	○	○	○	…	……	……
L. L. L.	○	○	…	○	……	before her Highnes
1HIV	…	○	○	…	……	……
R. & J.	…	○	…	○	sundry times	publiquely
M. of V.	…	○	○	…	diuers times	……
Much Ado	○	○	…	..	sundrie times	publikely
2HIV	…	○	○	…	sundrie times	publikely
M. N. D	○	○	…	…	sundry times	publickely
Hamlet	…	○	…	○	……	……
Lear	…	○	○	…	……	before the Kings Maiestie at Whitehall

T. & C.	…	○	○	…	……	……
Othello	…	○	…	…	diuerse times	Globe, Black-Friers
F_1	…	○	…	○	……	……

	上演劇団	上演時期	作者	ディヴァイス	印刷者名	出版者名	同所在地名	出版年
Titus	○	…	…	○	Iohn Danter	E. White T. Millington	○	1594
R. II	○	…	…	○	V Simmes	A. Wise	○	1597
R. III	○	lately	…	○	V. Sims	A. Wise	○	1597
L. L. L.	…	this last Christmas	○	○	W. W	C. Burby	…	1598
1HIV	…	…	…	○	P. S.	A. Wise	○	1598
R. & J.	○	…	…	○	T. Creede	C Burby	○	1599
M of V.	○	…	○	○	I. R.	T. Heyes	○	1600
Much Ado	○	…	○	○	V. S.	A. Wise W. Aspley	…	1600
2HIV	○	…	○	○	V S.	A Wise W. Aspley	…	1600
M. N D.	○	…	○	○	……	T. Fisher	○	1600
Hamlet	…	…	○	○	I. R.	N L	○	1604-5
Lear	○	Christmas Hollidayes	○	○	……	N. Butter	○	1608
T. & C.	○	…	○	○	G. Eld	R. Bonian H. Walley	○	1609
Othello	○	…	○	○	N O.	T Walkley	○	1622
F_1	..	…	○	Droeshout Portrait	I. Iaggard Ed. Blount	…	…	1623

シェイクスピアの作品執筆年代を推定する場合，前に触れた出版登録簿に記載されている正確な日付と，刊本のタイトルページに印刷されている出版年とが貴重な基礎資料となるが，良いクォートーの場合も，タイトルページには出版年が載り，出版者及びディヴァイスも漏れなく印刷されていることが分かる。年代順にみると1600年を境にシェイクスピアの名前が印刷されるようになったことが目を引く。1598年出版の *L. L. L.* にも作者名が記載されているが，これはクリスマスという具体的な上演時期の記載（二編のみ）からも分かるように，ジェイムズ一世の面前で上演された *Lear* 同様女王の臨席を得て上演され，それだけに各項目について入念であるためであろう。1600年からは『ヘンリー五世』以外の悪いクォートーをも含めシェイクスピアの名前がタイトルページを飾るようになるが，少なくともシェイクスピアの声価が宣伝に資するほど高まったことをも示していよう。*Lear* の場合は，タイトルより上の最上段に（従って最も大きな活字で）M. William Shak-speare : と Master 付きで印刷され，活字が一回り小さいタイトルを圧倒している。上演事情については，当初

の上演劇団のみの記述に具体的な上演頻度と上演場所が後程加わる。これは上演とその後の出版の関連性の強まりを思わせる。出版者が一人でも二人でも店の所在地は明記されるが，Wise と Aspley の場合は記載がない。Wise 単独では印刷されている。F_1 の場合，Jagaard は印刷者で Blount は出版者であるが，契約の関係で共に印刷者として名を連ねていると考えられている(27)。上段の飾り模様は喜劇に多くみられる。そして三作品が本文紹介を載せている。前述したように仮にタイトルページが宣伝用であったとしても，本文の正確さが宣伝文句となるということは，ヘミングとコンデルの言う剽窃が横行しテキストが相当乱れていたことを裏付ける。ここで，三作品の良いクォートー及び F_1 のタイトルページに印刷された本文紹介文を改めて列記すると：

『恋の骨折り損』(1598 年出版) 'Newly corrected and augmented'

『ロミオとジュリエット』(1599 年出版) 'Newly corrected, augmented, and/amended : '

『ハムレット』(1604-05年出版) 'Newly imprinted and enlarged to almost as much/againe as it was, according to the true and perfect/Coppie.'

F_1 (1623 年出版) 'Published according to the True Originall Copies.'

(同ヘッドタイトル) 'Truely set forth, according to their first/ORIGINALL.'

となる。ここで注目すべきことは，各クォートー版は 'Newly' から分かるように直前に出版された悪いクォートーを持つか，あるいは持つと考えられることである。F_1 にこの言葉が見えないのは当然であろう。初めての全集であり，36 作品のうち様々なクォートー版で出版されている 19 作品と F_1 で初めて活字となる 17 作品，即ち印刷・出版事情を異にする大量の作品を時間を経て編纂したものだからである。本文に殆ど問題のない『ジュリアス・シーザー』や『マクベス』から，様々な問題を抱える『リチャード三世』や『ハムレット』まで一括されているため，'True Originall Copies' は相当幅広く解釈せざるを得ない。それに反し，『ロミオとジュリエット』は二年前に出版の，『ハムレット』は前年出版の悪いクォートーをそれぞれ持ち，『恋の骨折り損』は翌年出版の『ロミオ』と本文紹介の言葉がほぼ同じところから，悪いクォートーが直前に出版されたと推定されている(28)。従って二人の劇団仲間による全集編纂と三つの良いクォートーの出版はどちらも本文を正すという共通の動機を持ちながら機敏さにおいて異なる点があろう。良いクォートーは何よりも正すべき悪い手本を目の前

にしているのである。作者の草稿とかけ離れた本文を直ちに正そうと考えても何ら不自然ではない。それが誰であろうと[29]，作者の書いた草稿に戻そうとする強い意志が働いて編纂され出版されたものが三つの良いクォートーであろう。正しい本文への意識がシャープに働いたとも言えよう。例えば『ハムレット』の場合，Q_1 が出た直後にその乱れた本文を訂正して出版された Q_2 のほうが，36 作品の異なる本文編纂事情を包括的に抱み込み時間をおいて出版された F_1 よりも，たとえシェイクスピア自身の revision の手がどこかで加わったとしても[30]，シェイクスピアのオリジナル草稿に近い本文を伝えているのではないか。加えて上演に関わる記述が一つも見えない。同じ例は『ヘンリー四世第一部』があるだけで他は全て記されている。それも，上演前に本文の修正を緊急に行おうとした意図の端的な表われと解釈できるかもしれない。敢えて言えば，舞台は編纂者の念頭になかったのではないか。

タイトルページは，たかが宣伝文句されど宣伝文句なのである。本文についての記述は，乱れたテキストへの危機感が宣伝文の姿を借りて顕在化したものと解すべきであろう。事実，良いクォートーが出版されたあとは悪いクォートーは一つも出ていないのである。編纂者の目的は達成された。良質の本文が宣伝に値し，一般に好まれていたことをここで改めて確認するとともに，一歩進めて，宣伝を超えて正しい本文の尊重をこれらのタイトルページは訴えている，と考えたい。

注

1. A. W. Pollard, 'The Foundations of Shakespeare's Text,' *Aspects of Shakespeare* (Oxford Universitiy Press, 1933), p. 5.
2. E. K. Chambers, *William Shakespeare : A Study of Facts and Problems* (Oxford University Press, 1930), vol. 1, p. 174.
   R. B. Mckerrow, *An Introduction to Bibliography for Literary Students* (Oxford University Press, 1967), p. 90.
   Philip Gaskell, *A New Introduction to Bibliography* (Oxford University Press, 1985), p. 183.
3. R. B. Mckerrow, *ibid*., pp. 90-91.
4. R. B. Mckerrow, *ibid*., p. 91.
5. F. P. Wilson, *Shakespeare and the New Bibliography*, revised and edited by Helen Gardner (Oxford University Press, 1970), p. 1.
6. F. P. Wilson, *ibid*., p. 1.
7. E. A. J. Honigmann, *The Stability of Shakespeare's Text* (Edward Arnold, 1965), p. 1.
   F. P. Wilson, *ibid*., pp. 1-15.

8. E. K. Chambers, 'The Disintegration of Shakespeare,' *Aspects of Shakespeare* (Oxford University Press, 1933), pp. 23-48.

9. Harriet Joseph, *Shakespeare's Son-in-law : John Hall, Man and Physician* (Anchor Books, 1964).

10. Edward Maunde Thompson, 'The Handwriting of the Three Pages Attributed to Shakespeare Compared with his Signatures,' *Shakespeare's Hand in The Play of Sir Thomas More*, Papers by Alfred W. Pollard et al. Shakespeare Problems II by A. W. Pollard & J. Dover Wilson (Cambridge University Press, 1923), pp. 57-112.

    J. Dover Wilson, 'Bibliographical Links Between the Three Pages and the Good Quartos,' *ibid*., pp. 113-41.

11. W. W. Greg, *The Editorial Problem in Shakespeare : A Survey of the Foundations of the Text* (Oxford University Press, 1942), pp. 188-89, Folio Order Table.

12. A. Harbage, *Shakespeare's Audience* (Columbia University Press, 1941).

    Andrew Gurr, *Playgoing in Shakespeare's London* (Cambridge University Press, 1987).

13. C. W. Hodges, *The "Globe" Restored : A Study of the Elizabethan Theater* (Benn, 1953).

14. E. K. Chambers, *William Shakespeare*, vol. 1, chap. III, Shakespeare and His Company, pp. 57-91.

15. A. W. Pollard, *ibid*., p. 3.

16. "diuerse stolne, and surreptitious copies, maimed, and deformed by the frauds and stealthes of iniurious impostors," 'To the great Variety of Readers.' ll. 23-25. シェイクスピアの本文校訂問題でよく引き合いに出される「枕詞」的な言葉。

17. Gaskell, *ibid*., p. 325.

18. F_1 : The Norton Facsimile, *The First Folio of Shakespeare*/Prepared by Charlton Hinman/Paul Hamlyn/Published by W. W. Norton & Company, Inc., 1968.

    Mr. William Shakespeares Comedies, Histories, & Tragedies/A Facsimile Edition Prepared by/Helge Kökeritz/*With an Introduction by*/Charles Tyler Prouty, Geoferey Cumberlege, Oxford University Press, 1955 (縮刷版).

    The First Folio of Shakespeare, 1623/Prepared and Introduced by Doug Moston. Facsimile. Applause Books, 1995.

    F_2 : *MR. WILLIAM SHAKESPEARE'S/COMEDIES, HISTORIES, AND/TRAGEDIES*/Faithfully Reproduced in Facsimile From the Edition of 1632 (Methuen & Co., 1909).

    F_3 : *MR. WILLIAM SHAKESPEARE'S/COMEDIES, HISTORIES, AND/TRAGEDIES*/Faithfully Reproduced in Facsimile From the Edition of 1664 (Methuen & Co., 1905).

F_4: *MR. WILLIAM SHAKESPEARE'S/COMEDIES, HISTORIES, AND/TRAGEDIES*/Faithfully Reproduced in Facsimile From the Edition of 1685 (Methuen & Co., 1904).

19. W. W. Greg, *The Editorial Problem in Shakespeare*, pp. 188-89. Folio Order Table. 悪いクォートーの数には 'derivative version' と 'octavo' が含まれる。

20. A. W. Pollard, *Shakespeare Folios and Quartos : A Study in the Bibliography of Shakespeare's Plays 1594-1685* (Methuen and Company, 1909), pp. 64-80. しかし最近 'authorial revision' 説との関係で批判を受けている。Cf. Random Cloud, 'The Marriage of Good and Bad Quartos,' *Shakespeare Quarterly*, 33 (1982), pp. 421-31, Steven Urkowitz, "Well-sayd olde Mole': Burying Three *Hamlets* in Modern Editions,' *Shakespeare Study Today*, ed. Georgianna Ziegler (AMS, 1986), pp. 37-70.

21. Alice Walker, *Textual Problems of the First Folio* (Cambridge University Press, 1953).
W. W. Greg, *The Shakespeare First Folio* (Oxford University Press, 1955), pp. 159-60.
Charlton Hinman, *The Printing and Proof-Reading of the First Folio of Shakespeare*, 2 vols (Oxford University Press, 1963).

22. J. Halio, *The First Quarto of King Lear*, The New Cambridge Shakespeare (Cambridge University Press, 1994), Introduction, pp. 1-26.

23. Stanley Wells and Gary Taylor (general editors), *William Shakespeare : The Complete Works* (Oxford University Press, 1986).
Stanley Wells and Gary Taylor with John Jowett and William Montgomery, *William Shakespeare : A Textual Companion* (Oxford University Press, 1987).

24. E. A. J. Honigmann, *ibid*.

25. Alice Walker, *ibid*.
Hardin Craig, *A New Look at Shakespeare's Quartos* (Stanford University Press, 1960).
J. K. Walton, *The Quarto Copy for the First Folio of Shakespeare* (Dublin University Press, 1971).

26. *Titus* Q_1 (1594), Folger Shakespeare Library Publications, ed. by J. C. Adams. (Charles Scribner's Sons, 1936).
R. II Q_1 (1597), Shakespeare Quarto Facsimiles No. 13 (Oxford University Press, 1966).
R. III Q_1 (1597), Shakespeare Quarto Facsimiles No. 12 (Oxford University Press, 1959).
L. L. L. Q_1 (1598), Shakespeare Quarto Facsimiles No. 10 (Oxford University Press, 1957).
1 HIV Q_1 (1598), Shakespeare Quarto Facsimiles No. 14 (Oxford University Press, 1966).
R. & J. Q_2 (1599), Shakespeare Quarto Facsimiles No. 6 (Oxford University Press

1966).

M. of V. Q_1 (1600), Shakespeare Quarto Facsimiles No. 2 (Oxford University Press, 1957).

Much Ado Q_1 (1600), Shakespeare Quarto Facsimiles No. 15 (Oxford University Press, 1971).

2 HIV Q_1 (1600), A Facsimile in Photo-Lithography by William Griggs/Published by W. Griggs, 1882?

M. N. D. Q_1 (1600), A Facsimile in Photo-Lithography by William Griggs/Published by William Griggs, 1880.

Hamlet Q_2 (1604-05), Shakespeare Quarto Facsimiles No. 4 (Oxford University Press, 1964, 初版 1940).

Lear Q_1 (1608, Pied Bull Q.), Shakespeare Quarto Facsimiles No. 1 (Oxford University Press, 1964, 初版 1940).

T. & C. Q_1 (1609), Shakespeare Quartos in Collotype Facsimile No. 8 (Shakespeare Association, Sidgwick and Jackson Ltd., 1952).

Othello Q_1 (1622), A Facsimile by Charles Praetorius/Published by C. Praetorius, 1885.

27. A. W. Pollard, *Shakespeare Folios and Quartos*, p. 112.
W. W. Greg, *The Shakespeare First Folio*, pp. 6-11.

28. W. W. Greg, *L. L. L.* (Q_1) (Shakespeare Quarto Facsimiles No. 10, Oxford University Press, 1957), An Introductory Note.
W. W. Greg, *The Editorial Problem in Shakespeare*, p. 11.

29. W. W. Greg, *The Shakespeare First Folio,* pp. 76-80 参照。F_1 についての議論。

30. G. R. Hibbard, *Hamlet*, The Oxford Shakespeare (Oxford University Press, 1987), 'Textual Introduction,' 'Editorial Procedures,' pp. 104-31.

付記：タイトルページその他の綴は現代化し，シェイクスピアの作品の英語略名は普通行われている省略法に従った。